

II よこすか海辺ニュータウン基本目標と環境色彩の方向性

よこすか海辺ニュータウンの街づくりデザイン計画では、街づくりガイドライン（案）のなかで、街づくりデザインの基本目標が下記のように設定されている。

海辺複合リゾート都市

1. 海に開かれ、海からの景観に配慮した街並みの実現
2. 森、丘、豊かな緑に囲まれた自然と共生する街並みの実現
3. 様々な人が戸外の環境を楽しめる街並みの実現
4. 横須賀の歴史と国際性を踏まえた文化を感じさせる街並みの実現

これらの基本目標と周辺調査に基づき、色彩計画の方向性を検討する。

■明るい海辺に映える街並みをつくる

横須賀の現在の建築群の外装色を調査すると明るいオフホワイト色の使用が多い。これは明るいひざしの下で映える色調であり、海辺の都市の個性を強調している。海辺ニュータウンでもこのような地域の選択を継承し明るい色調をベースカラーとすることが望ましい。低明度の色彩は、深い森の緑の中では落ち着いていて魅力的だが明るい海辺の陽光の下では重く、威圧感を感じさせるものとなる恐れがある。よこすか海辺ニュータウンでは、現代的な軽快感のある明度の高い色調の使用を基本とする。

■自然景観と調和した落ち着いた街並みをつくる

よこすか海辺ニュータウンはひろびろとした海に面している。海は天候によって日々その色彩を変化させるが、この色彩変化の範囲は穏やかな低彩度の範囲で移り変わる。また、生きている自然の樹木の緑も季節によって変化するが、この緑の彩度変化はおおむね3～6程度の範囲で推移する。このような穏やかな自然の色調の変化が生き生きと感じられるためには、巨大な人工物の鮮やかさを押さえることが望ましい。街並みに賑わいを与える建築物の低層部や地域のランドマークとなるようなシンボリックな建築は誘目性を高めるため意識的に高彩度色を使う可能性もあるが、一般の建築物外装色や外構計画では、自然界の中で動かない大きな面積を占める砂や石や土などがもっている彩度程度に押さえるべきであろう。

そのような彩度に対する配慮が、対比的に海や樹木の緑の変化を印象的なものとする。

■複合都市としての多様で変化のある景観をつくる

よこすか海辺ニュータウンでは、住宅や業務・商業・文化施設が集まり多様な機能が集積していく。このような多様な施設群の集合を生かし、厚みのある変化のある都市景観を創造すべきであろう。

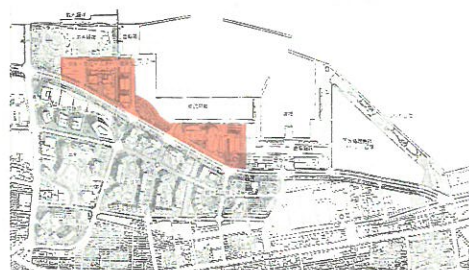
色彩は単一ではなく、複合による変化ある景観を創出するため、各ゾーンの特性を注意深く読み込み、色彩をそれぞれの特性に合った範囲に設定する。しかしこの色彩使用範囲はよこすか海辺ニュータウン全体の統一感をつくり出すように相互に関連したものとすべきであろう。

■楽しい賑わいに溢れた個性的な街をつくる。

建築の外装色を規制しすぎるとおもしろみのない都市景観になってしまう危険性もある。そのため、外装色の使用範囲にはある程度の幅をとり、時代の流行性なども取り込める余地を残す。また、積極的に賑わいを創り出す必要があるゾーンでは、アクセントカラー等の使用を積極的にすすめ、自由で活気があり楽しい賑わいに溢れた景観を創出する。

III よこすか海辺ニュータウンの地区別カラーイメージ

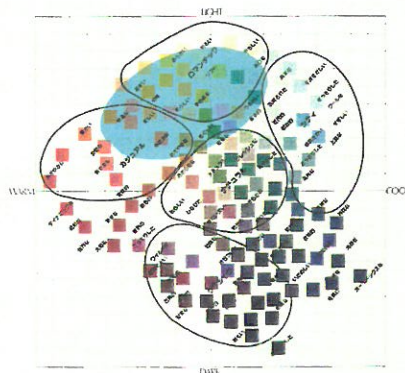
1.) 商業・文化施設



カラーイメージワード

新しい 賑わいのある
楽しい 変化のある

カラーイメージマップ



商業・文化施設ゾーン

■明るい賑わいをつくるクロマティックカラーのベースカラー

商業・文化施設地区の建築物の外壁は、明るく楽しい海辺の賑わいを積極的に創るために、建築形態と連携したクロマティックカラー（有彩色）の多色相配色を基本とする。

海辺の明るさを表現するため、明度は高めに設定し、軽快なイメージを演出する。

色相は、クール系・ウォーム系の全色相を使用し、歩いて楽しい人間的尺度に合った変化のある空間を創造する。

歩行者の景観により重要な低層部の色彩は、中・高層部の色彩よりもやや彩度を上げ、より色みを感じるような配色が好ましい。

■楽しい海辺の空間を演出するアクセントカラー

海辺の楽しい雰囲気을盛上げるために、積極的にアクセントカラーを使用する。アクセントカラーは主に、建築低層部やエントランスまわり、ストリートファニチュア等に展開する。

アクセントカラーの使用は自由とするが、明るい賑わいのある雰囲気を強化するため、基本的には、低明度色や低彩度色の使用はひかえる。

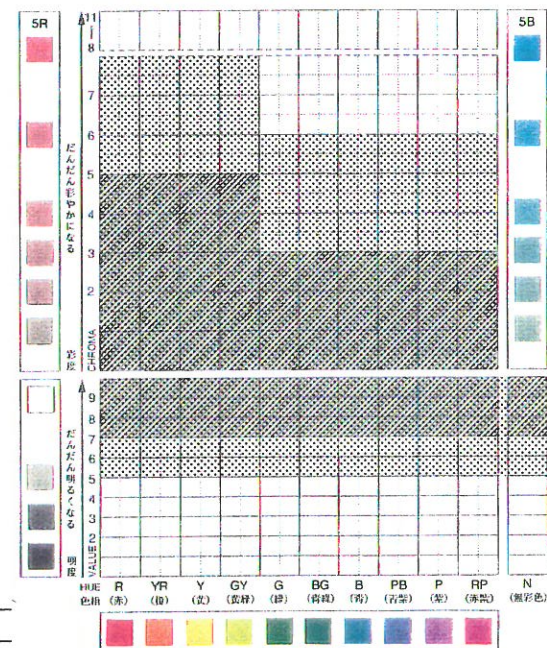
■建築物の楽しい表現の背景となるペーヴメント

商業・文化施設地区の外構に使用される床材は、基本的には落ち着いたボードウォーク等の自然材や低彩度色の建材を使う。

これは、賑わいを表現する建築の配色をより引き立たせる効果を持っている。穏やかな低彩度のペーヴメントを背景に対比的に建築物の誘目性が高まる。

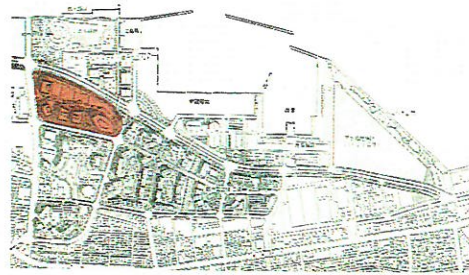
また、特別にデザインした広場等は、彩度の高い床材の使用もありうるが高・中彩度色を使用する際は、周囲との関係を整理して使用する。

色彩基準案



低層アシストカラー
中高層ベースカラー

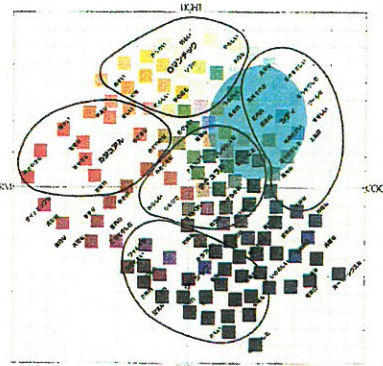
2.) 業務施設



カラーイメージワード

知的 軽快な
先進的 都市的

カラーイメージマップ



■インテリジェントイメージを演出するアクセントカラー

主として基壇部に使用されるアクセントカラーの使用は自由とするが、背景となる基壇部の色彩との調和に配慮する。

また、知的なイメージを強化していくために、ブルー系やグレーグリーン系など、クール系の色調の使用を優先したい。

業務施設ゾーン

■知的な現代性を象徴するニュートラルカラー

業務ゾーンは、高度にインテリジェント化されたオフィスビルが建ち並ぶ。広々としたオフィスからは明るい海を臨むことができる。業務ゾーンの建築物の上層部は先進デザイン、基壇部はベーシックデザインがテーマとなっている。

先進性の表現は多様であるが、海辺ニュータウン全体の景観を考え、住宅ゾーンや商業ゾーン等の環境色彩特性を明確にしていくならば、ニュートラル系やクール系の軽快なイメージをもつ色彩等のガラスやメタリックパネルの使用が望ましい。

彩度は低く、ほとんど無彩色に近いが、空や海の色彩を映しクール系のさわやかな現代的な景観を創り出す。

■風格のある街並みをつくるストーンカラーの基調部

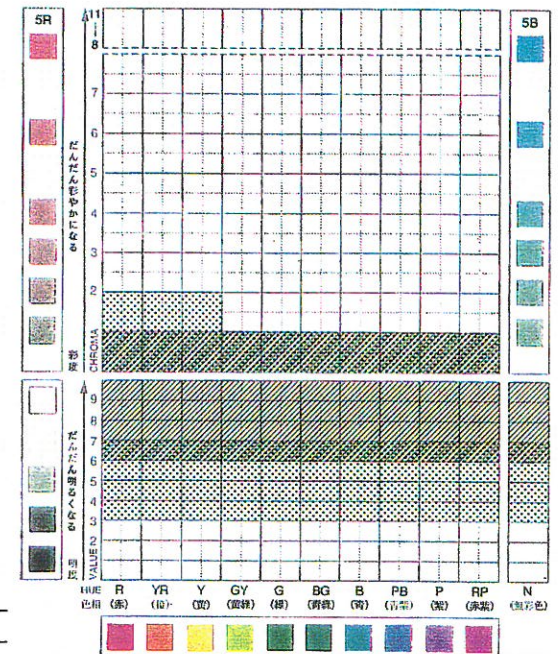
ニュートラル系やクール系の先進的なイメージをもつ高層部に対し、基壇部は風格のある落ち着いた街並みを構成する。

色彩は、石材が持っている穏やかでどっしりとしたトーンを基調とする。石材は一般に暖色系で彩度分布が高く、寒色系では暖色系ほど彩度の高い色彩はない。

高層部の色調と合わせるならば、クール系やニュートラル系の石材色の使用が望ましい。

色彩基準案

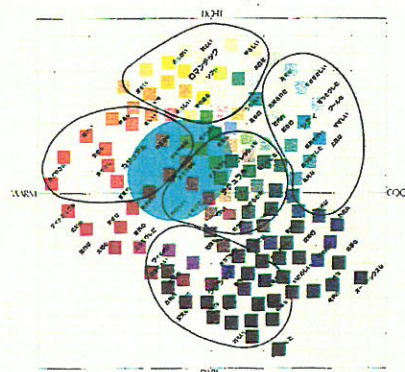
低層アシストカラー
中高層ベースカラー



3.) 海辺住宅



カラーイメージマップ



■海辺住宅の個性を強調するアクセントホワイト

住宅の主として低層部分に海辺のイメージを強調するホワイトをアクセントカラーとして効果的に使用する。海辺の明るい陽射しの下では、田園の緑の中の住宅よりもやはっきりした色彩の対比が効果的である。

小面積に対比的にホワイトを使用することによって海辺住宅の個性が強化される。

海辺住宅ゾーン

■落ち着いた海辺住宅景観をつくるサンドベージュ

海辺ニュータウンの中心的存在である住宅ゾーンのベースカラーは潤いのある落ち着いた景観を創り出すため、明るいオフホワイト系や海辺に見られるサンドベージュ系を基本とする。

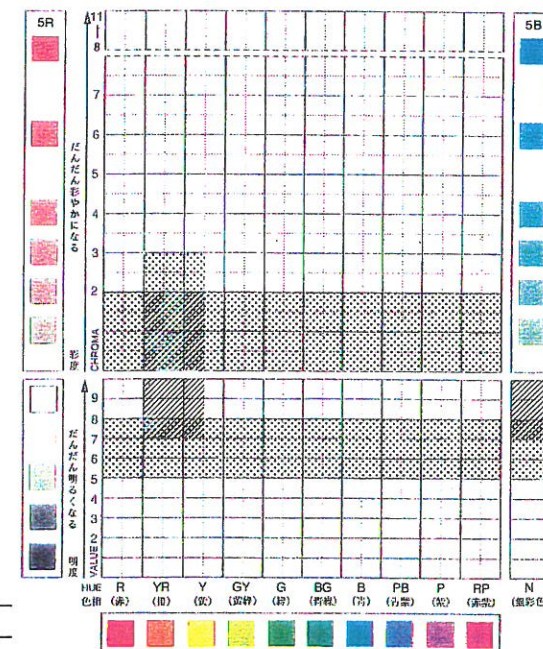
オフホワイト系やベージュ系は住宅外装色として一般的な色彩であるが、この海辺住宅ゾーンでは、配色に配慮し棟ごとに色彩を変えるなどして景観が単調になることを避ける。住宅ゾーンは永く親しみのある景観を創り出すため、あまり彩度の高い色彩は使用しない。

■住宅景観に変化を与える低層部のアシストカラー

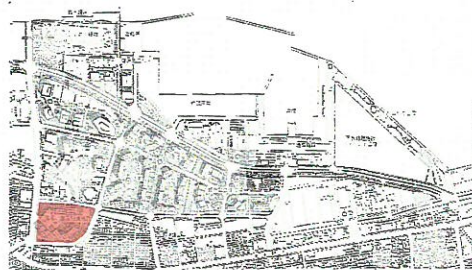
海辺住宅ゾーンは周辺の既存の住宅群と比べると高く威圧感のある建物がつくられる可能性が高い。そのため、既存住宅地との景観上の連続性をはかり、威圧感を和らげるため、低層部のデザインは重要である。色彩の使用範囲も低層部では自由度を広げ、変化のある空間の創出をめざす。中高層部は落ち着いた統一性を強調し、低層部は中・低彩度色を効果的に使用し、変化のある個性を強調する。

色彩基準案

低層アシストカラー
中高層ベースカラー



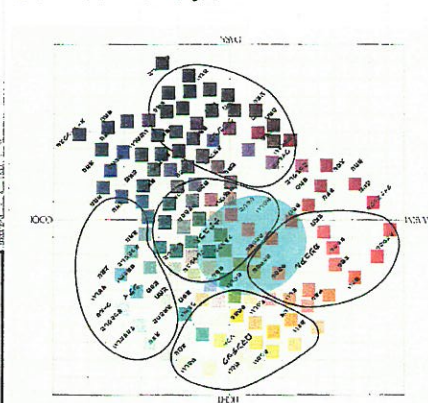
4.) 複合住宅



カラーイメージワード

憩いのある 歴史性
落ちついた 潤いのある

カラーイメージマップ



複合住宅ゾーン

■落ち着いた住宅景観をつくるサンドベージュ

低層部にミニショップやサービス施設が導入される複合住宅ゾーンも基本的には海辺住宅ゾーンと同じく、ベースカラーは明るいオフホワイト系や海辺に見られるサンドベージュ系を基本とする。複合住宅の周辺を囲む既存住宅にもこの外装色は、多く用いられているが、複合住宅ゾーンでは配色に配慮し、景観が単調になることを避ける。

■変化のある低層部をつくるアクセントカラー

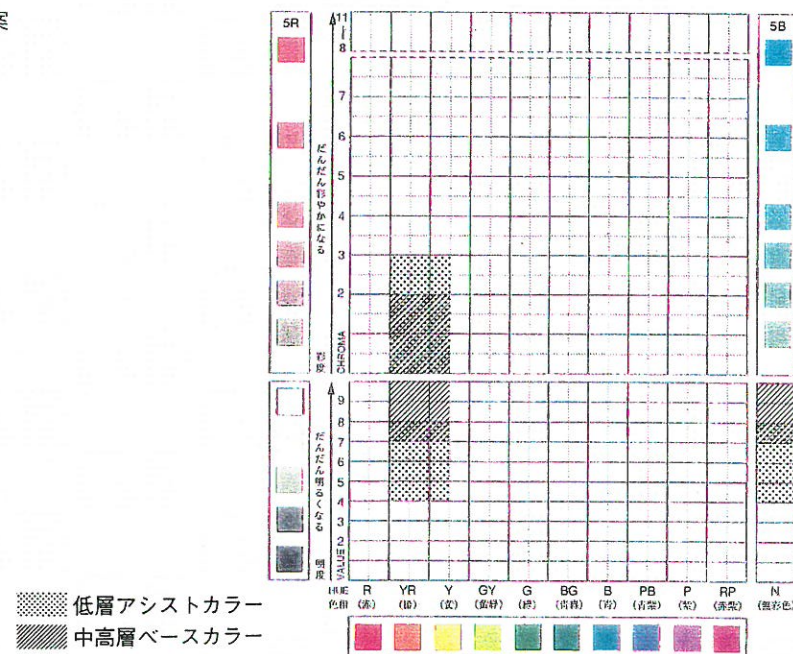
複合住宅ゾーンの低層部のミニショップやサービス施設は、色彩の使用範囲の自由度を広げ変化のある空間を演出し、周辺の既存住宅の街並みとの連続性をはかる。中高層部は落ち着いた統一性を強調し、低層部は中・低彩度色を効果的に使用し、変化のある個性を強調する。

■複合住宅の個性を強調するアクセントホワイト

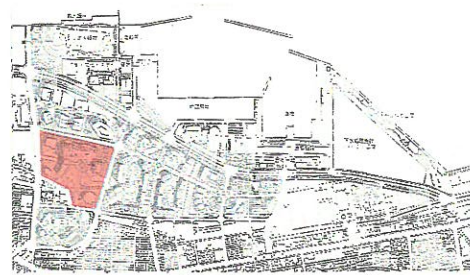
住宅の主として低層部分に海辺のイメージを強調するホワイトをアクセントカラーとして効果的に使用する。海辺の明るい陽射しの下では、田園の緑の中の住宅よりもやはっきりした色彩の対比が効果的である。

小面積に対比的にホワイトを使用することによって複合住宅の個性が強化される。

色彩基準案



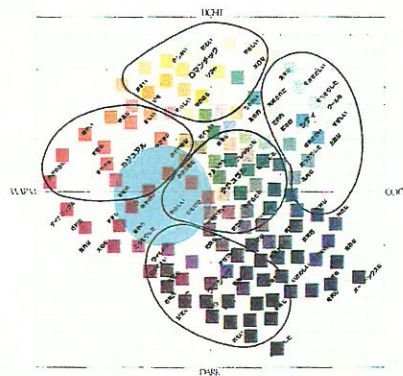
5.) 文化・教育施設



カラーイメージワード

風格のある 落ち着いた
開放的な アカデミックな

カラーイメージマップ



文化・教育施設ゾーン

■文化の香りと新さを感じさせる配色

文化・教育施設ゾーンは、風格があり、アカデミックな文化の香り高い景観を創り出すため、樹木の緑とも調和の得やすい暖色系の低彩度色を基調とする。

海辺ニュータウンの全体の統一性を感じさせるため、あまり暗い低明度色は使わず学生達が楽しめる明るい色調を使う。

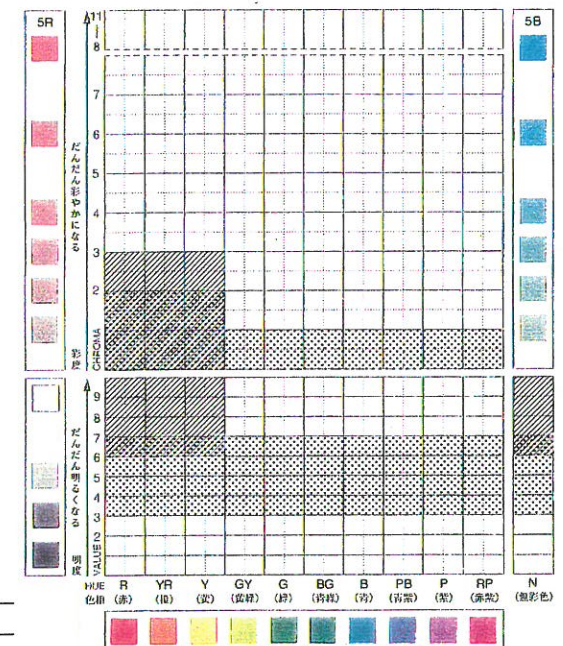
また配色等で新しさ、先進的なイメージも積極的に取り込み個性化をはかる。

■知性と風格を強調する低層部のストーンカラー

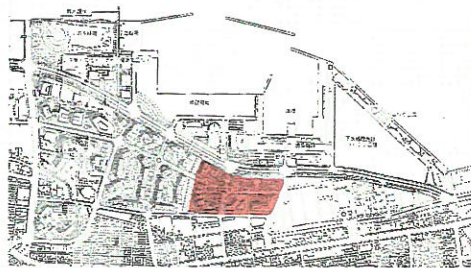
低層部は落ち着いた風格のある景観を創り出すため、自然石の持っている色調の使用を基本とする。あまり高い明度の色彩の使用は避け、材質も素材感のある時と共に風格を増していくようなものを考える。

色彩基準案

低層アシストカラー
中高層ベースカラー



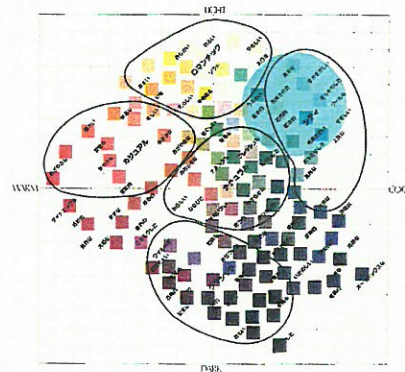
6.) 都市型工業ビル



カラーイメージワード

洗練された 快適な
都市的 機能的

カラーイメージマップ



都市型工業ビルゾーン

■先進的な立体工場イメージを創るカラーダグレイ

海辺ニュータウンの立体工場群は、クリーンで快適な新しい環境を創出する。
無味乾燥な雑然とした従来の工場イメージを払拭し、先進的な美しい工場景観を創る。
都市型立体工場ゾーンのベースカラーは、やや色みを持つカラーダグレイ。
色彩は押さえ現代の新しい素材感や造形をより印象的なものとする。

■先進イメージを強調するアクセント；ストロングカラー

ベースとなる都市型立体工場の建築物をカラーダグレイだけで構成すると単調な退屈な景観になりやすい。そのため、建築形態や素材をうまく生かしたアクセントカラーを使用することが望ましい。

アクセントカラーは、サイン性を強調し、誘目性の高い高彩度色を中心に使用する。
カラーダグレイと強いアクセントカラーの対比は、汚れやすい工場の外壁の見えにも効果的である。

色彩基準案

低層アシストカラー
中高層ベースカラー

